

令和6年度 授業改善推進プラン5年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	評価
国語	①目的や意図に応じて自分の考えを書いたり、表現したりすることが苦手な児童が多く見られるため改善策が必要である。	①苦手な児童に対して、キーワードを提示したり穴埋め形式で取り組めるようにしたりする支援を行うことで、自分の考えを書きやすくする手立てをとる。	
社会	①「資料を見て問題に答える」問題の誤答率が高いため支援が必要である。	①児童に対して、グラフや参考写真などの資料をデータや印刷物で配布し、日常的に資料を活用することで、問題と資料の繋がりをもてるようにさせる。	
算数	①文章題を立式し、読み解くことを苦手とする児童が多く見られるため支援が必要である。 ②前学年までの学習内容の定着率が二極化している。	①図や数直線、テープ図などで関係を整理する指導を、習熟度別クラスの実態に応じて取り入れる。 ②プリントやタブレットを活用し、既習内容を中心に復習をする時間を設ける。	
理科	①課題を解決するために、どのような実験や観察をするべきかを考える力を高める必要がある。 ②知識の定着率が二極化している。	①実験方法や観察方法を児童に考えさせる機会を多く設ける。 ②復習プリントや動画を活用して、復習の時間を設ける。	
音楽	①基礎的な技能は向上しているが、思いや意図をもって歌うことや楽曲の曲想を理解することが表現に繋がるとよい。 ②音楽を形づくっている要素を聴き取ることは概ねできているが、それを表現するための音楽的な言葉や使い方に慣れていない。	① 楽曲の背景を理解しさらに自分の思いをもつことや、それを周りと共有する活動、楽譜を読み取り分析する活動を増やし、表現の助けになるようにする。 ②自分の言葉を音楽的な言葉に置き換えて使う活動や友達と相談して考えを共有する活動を増やす。	
図画工作	①多才でアイデアも豊かな児童が多いが、発想することに苦手意識がある児童も多いので個別の支援が必要である。 ②用具や材料の扱いや、技術面でまだ粗さがありじっくり取り組む姿勢が必要である	①全体で活動やアイデアをお互いに見合う機会も設け、発想や視野を広げるきっかけとする。 ②用具や材料の扱いや、技術面の指導を、全体で確認する他に児童自身が考える場も設ける。技術面で課題がある児童には具体的な視点などを伝え、個別に支援する。	
家庭	①裁縫の技能が二極化している。 ②基礎的な読解、話を聞いて想像する力が弱い。	①ペアやグループでの活動を増やし、児童同士での学び合いの場を作る。 ②教科書を一緒に読み解きながら、想像力を高める時間を設定する。	
体育	①運動に取り組む目的や個人のため意識しながら活動できている児童が少ない。 ②運動に対して苦手意識の強い児童がいるので支援していく必要がある。	①各運動領域において、特性や目的を意識して活動させるために、めあての確認を行い、活動後にめあてに対しての振り返りをさせる。 ②児童同士の教え合い活動、個人の技能に応じたスモールステップの指導、場や教具の工夫、ICTを活用した動きの撮影等の手立てを児童の実態に応じて設定していく。	
外国語	①プレゼンテーションの場で緊張や発音等に自信がないことから小声になったり早口になったりしてしまう児童が多く見られるため支援が必要である。	①フラッシュカードを活用して単語を繰り返し練習する。また、個人・ペア・少人数グループ等の様々な形態で、発表前の授業において十分練習ができるよう時間を設ける。	
道徳	①自分の考えを積極的に表現できる児童の考えだけで授業が進んでしまい、深まりきらないことがある。	①全体での交流の前にペアやグループでの交流の時間を設け、自分の考えだけでなく、いいなと思った友達の考えも全体に広げられるような展開にする。	
総合	①課題を追究する力やそれをまとめて表現する力の差が大きい。	①情報を取捨選択し、その情報から分かることを自分の言葉で表現させる機会を多く設ける。プレゼンテーションソフトの効果的な使い方についての指導をする。	
ICT端末の活用	①算数では、Chromebook を活用して既習事項の復習を推進する。(算数) ②どの教科においても、考えの共有を行う場面において「スクールタクト」や「コラボノート」を活用し、児童同士が互いの考えを共有しやすくする。 ③総合的な学習の時間のまとめでは「グーグルスライド」を活用し、効果的なプレゼンテーションの仕方を身に付ける。(総合的な学習の時間) ④体育の学習では、自分の体の動きを客観的に把握する手段としてカメラ機能を活用する。(体育)		